

里山資本主義の道のり

地域づくりの視点からの森・バイオマス

人と人、人と自然、世代と世代、
をつなぐ「バイオマス資源」



奈良県川上村、吉野地方の250年生の杉林

経済性・生産性・効率性を追い求めた現代

・時間を価値化できるか・・・

1億数千万年前に、数千万年という時間の中で形成された石油を、

更に精製し、その最も貴重な部位「ガソリン」が、**1ℓ170円**は妥当か？

数百年生の木材を**1m³数千円**は妥当か？

・関係性を価値化できるか・・・

自分一人で、自分の価値観の中で生きる。無縁社会

「無縁社会」という現実

- 人と人の関係性

家族間、友人間、組織内、地域内。 「今だけ、お金だけ、自分だけ」

「孤立社会」、「無縁社会」、「LINE社会（貧情報社会）」

文字で「おはよう」= 8byte

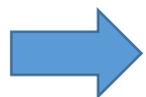
対面で「おはよう」= $2(\text{sec}) \times 1,024 \times 720(\text{pcs}) \times 50 = 73,728,000\text{byte}$

- 人と自然の関係性

生産と消費の分離、命の躰の緒は何処につながる

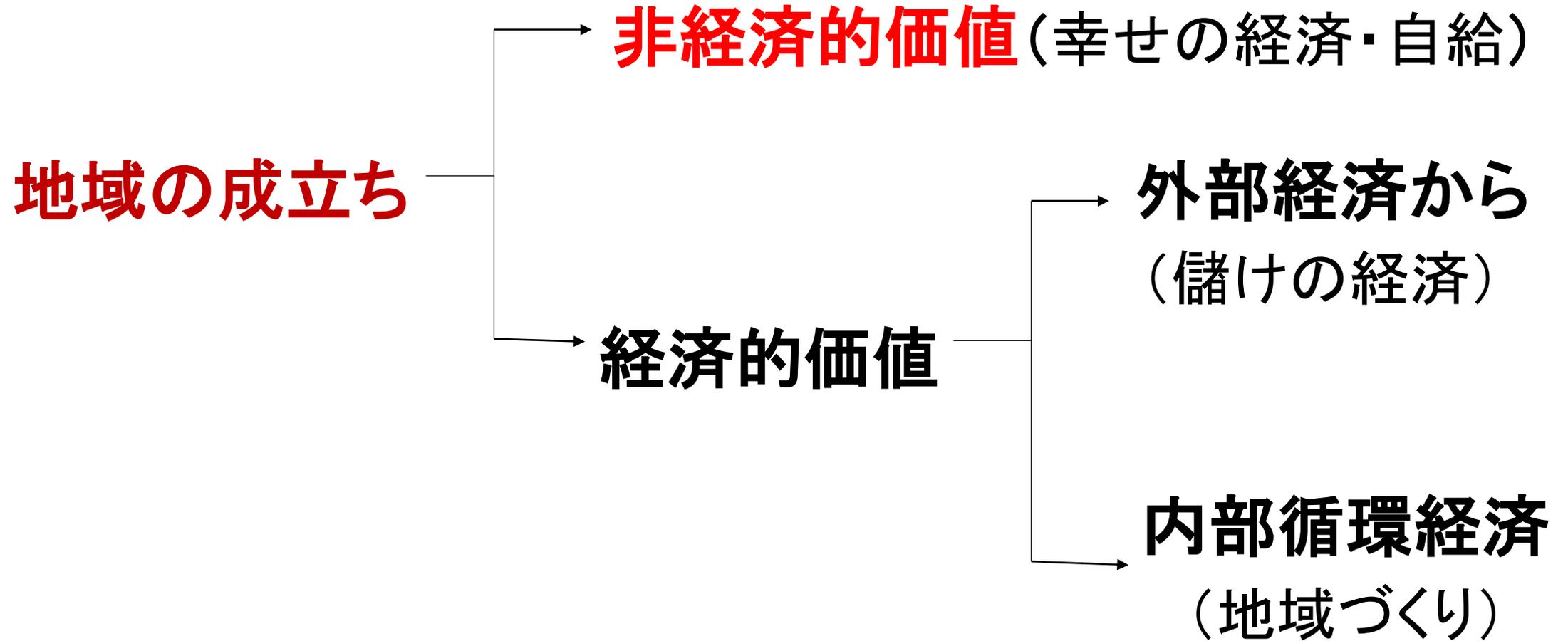
- 世代を超えた関係性

これから生まれる世代に対する配慮の無さ、無関心



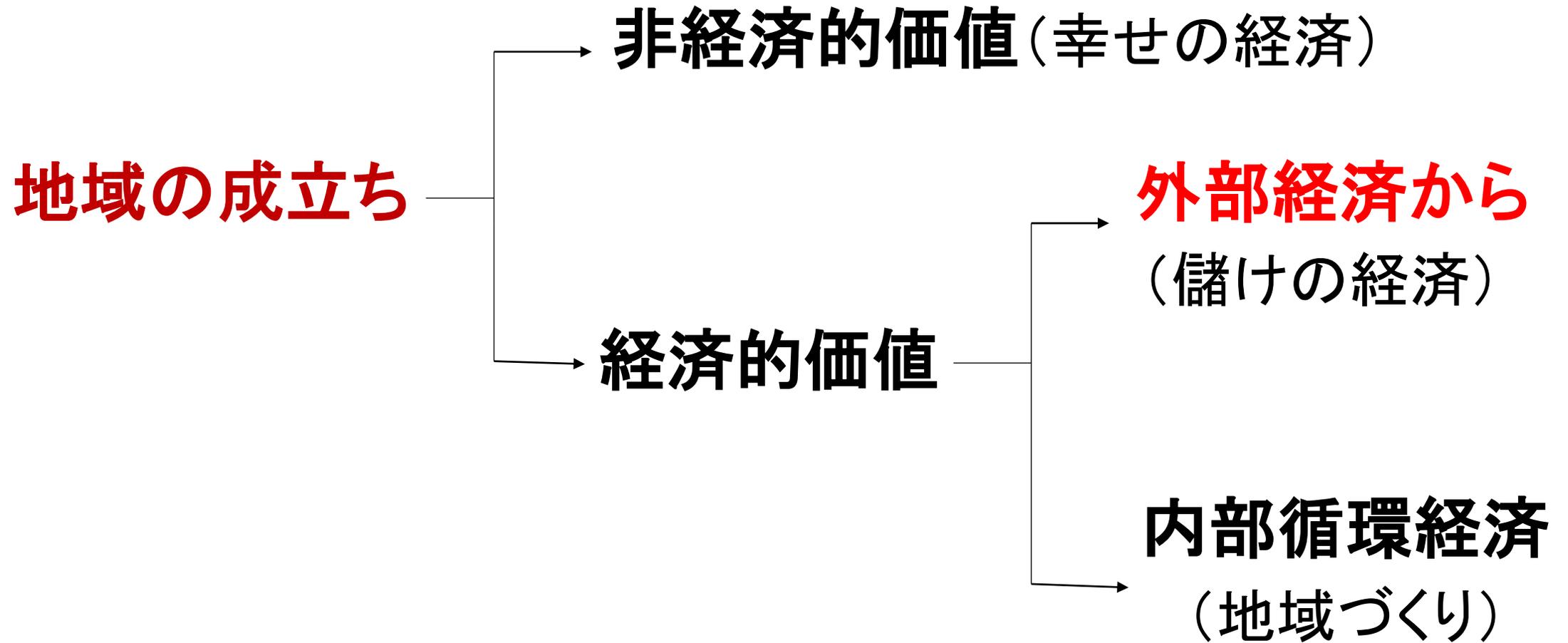
持続可能ではない社会（経済性、効率性が優先）

地域とはどのようにして生きてきたか



非経済的価値(幸せの経済・経済統計にあがらない)

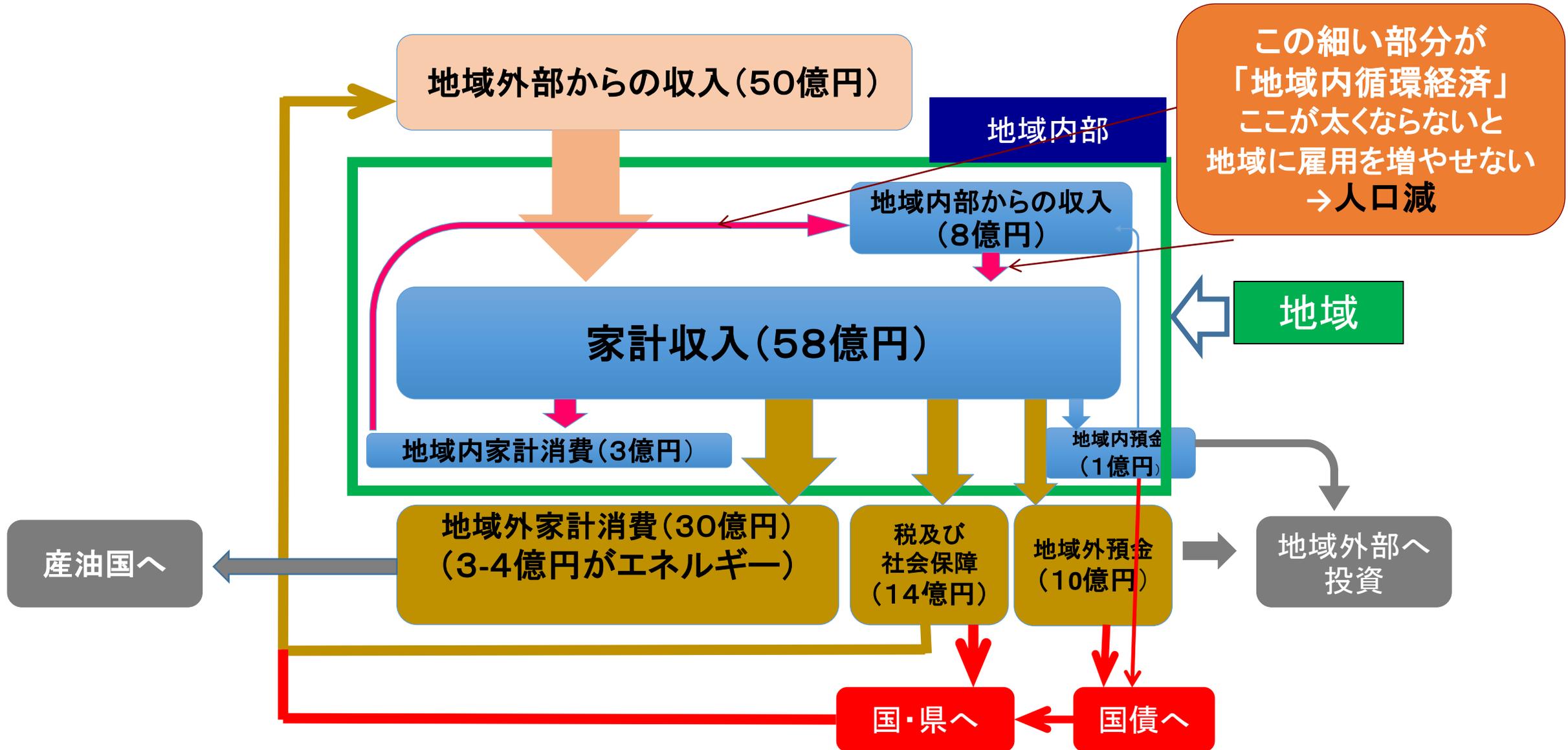
- **食料・エネルギー**の自給、採集、交換（自分を養い、分け合う）
- **結**、普請、共同作業（草刈、お宮の維持、田植え、屋根吹き・・・）
- 見守り、人と人のつながり、**寄り合い**
- **祭り**（社会教育、人材の育成・確保） ⇒ **関係性づくり**
- **水**の共同管理、**共有林**(財産区)の管理
- イベント（運動会、産直市・・・） **地域づくり、地域の自治、**
- 集落の「希望」作り、集落ビジョン **個人の幸せ、を構成する重要な要素**
- **心**の置き方(金儲けだけでは埋まらない幸せ)
- **郷土愛、誇り**
- 先祖、**神様**、自然、**景観**、**文化**・・・



外部経済へのアプローチ

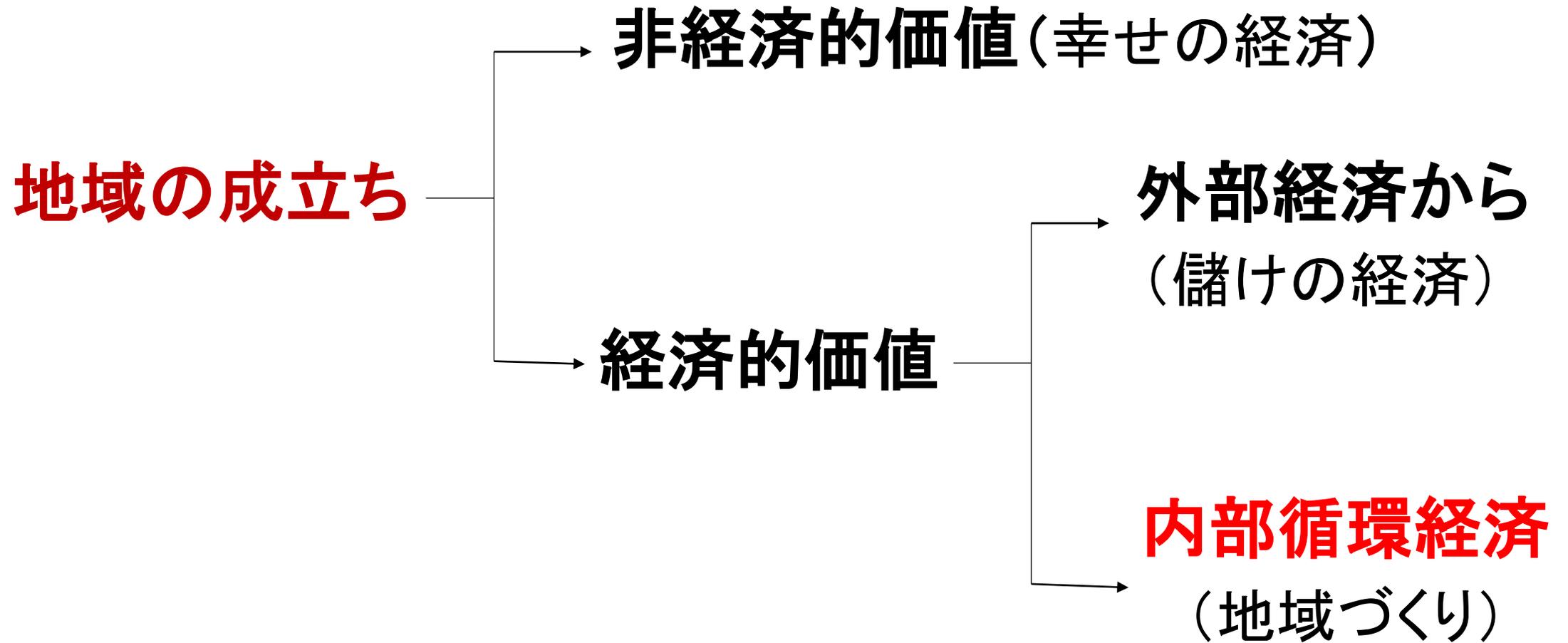
- ・産業の振興
- ・工場誘致 ・施設（ショッピング・モールやテーマパーク）建設
- ・ブランド化（地域特産品、農産物、コメ、・・・）
- ・グローバルマーケットへのアプローチ
- ・ネットショップの開設
- ・観光振興
- ・ふるさと納税 まだまだ、沢山のこと・・・

平均的な中山間地域、3000人集落(豊田市旭地区)のお金の循環



◆地域内でのお金の循環は殆どない。

(総理府統計局消費動向データ)



内部循環経済の拡大

地域内循環経済の構築

住民自治には**地域経営**という視点が必要、外からお金を稼ぐだけでは、地域は豊かにならない。

地域内でお金を循環させる仕組みが、**不可欠**！

地域内循環経済の基礎（60年前までは当たり前）

エネルギー、**食料**、**水**、**医療・福祉**、**教育**、**安全**、**公共工事**、**娯楽**、
などの、自治（地域経営）、自給

- **食料費**

地域商店の利用拡大、地域食材・食品の地産地消
地域通貨（木の駅と森券）、地域内米価（鳴子米）、
6次産業化（パンの消費は1万円/人、1000人で1千万円）

- **エネルギー費**

確実に、地域外へ（国外へ）出て行っているお金
新規事業のための、資金調達を考えるか、
出て行くお金を、地域内で循環させるか。（**里山資本主義**）

岡山県真庭市の「里山資本主義」

人口約41,000人（岡山市の1/18）

面積828.43平方キロ（岡山市の1.1倍）

一林業・商業・工業

（森林率81%、うち人工林率61%）

○平成18年「バイオマスタウン」認定

○藻谷浩介氏とNHK取材班

「里山資本主義ー日本経済は安心の原理で動くー」

○「真庭バイオマス発電所」(1万キロワット)稼動

CLT (Cross Laminated Timber)も本格化





1997年につくられた「2010年 真庭人の1日」

～2010年の真庭人の1日～

西暦2010年、秋。

私、造り酒屋の均ちゃんですが、私の酒蔵では、10年ほど前から、タンクを洗う洗剤に、環境負荷の低い砂糖を原料としたものを使っている。

そんな私も、今年60歳の女台になり、聴はもともと白かったが、最近ではずこし耳も遠くなってきた。それでも、真庭の川のせせらぎは、何故か鮮明に聞こえる。

そして、毎年この季節になると、真庭の山や川、そして街角から、元気のいい子供達のもっとも楽しそうな声も聞こえてくる。それは小学生達の声だ。

私が小学生だった昭和30年代には、農村風景と呼ばれたもので、最近、真庭の小学校でも2年生の2学期を、全てこの授業にあてている。子供達は、野山や川を自由にかけて回りながら、自然の移り変わりや、そこに棲む動物や草花とふれあうのです。そうすることで、自然のもつ癒しさと楽しさ、そして何よりも、その自然と人とのふれあいの大切さを、身をもって学ぶのである。

もともとここで生まれ育った真庭人にとって、自然と



西暦2010年、秋。

私、造り酒屋の均ちゃんですが、私の酒蔵では、**10年ほど前から、タンクを洗う洗剤に、環境負荷の低い、砂糖を原料としたものを使っている。**

そんな私も、今年60歳代になり、最近では少し耳も遠くなってきた。それでも、真庭の川のせせらぎは、**なぜか鮮明に聞こえる。**

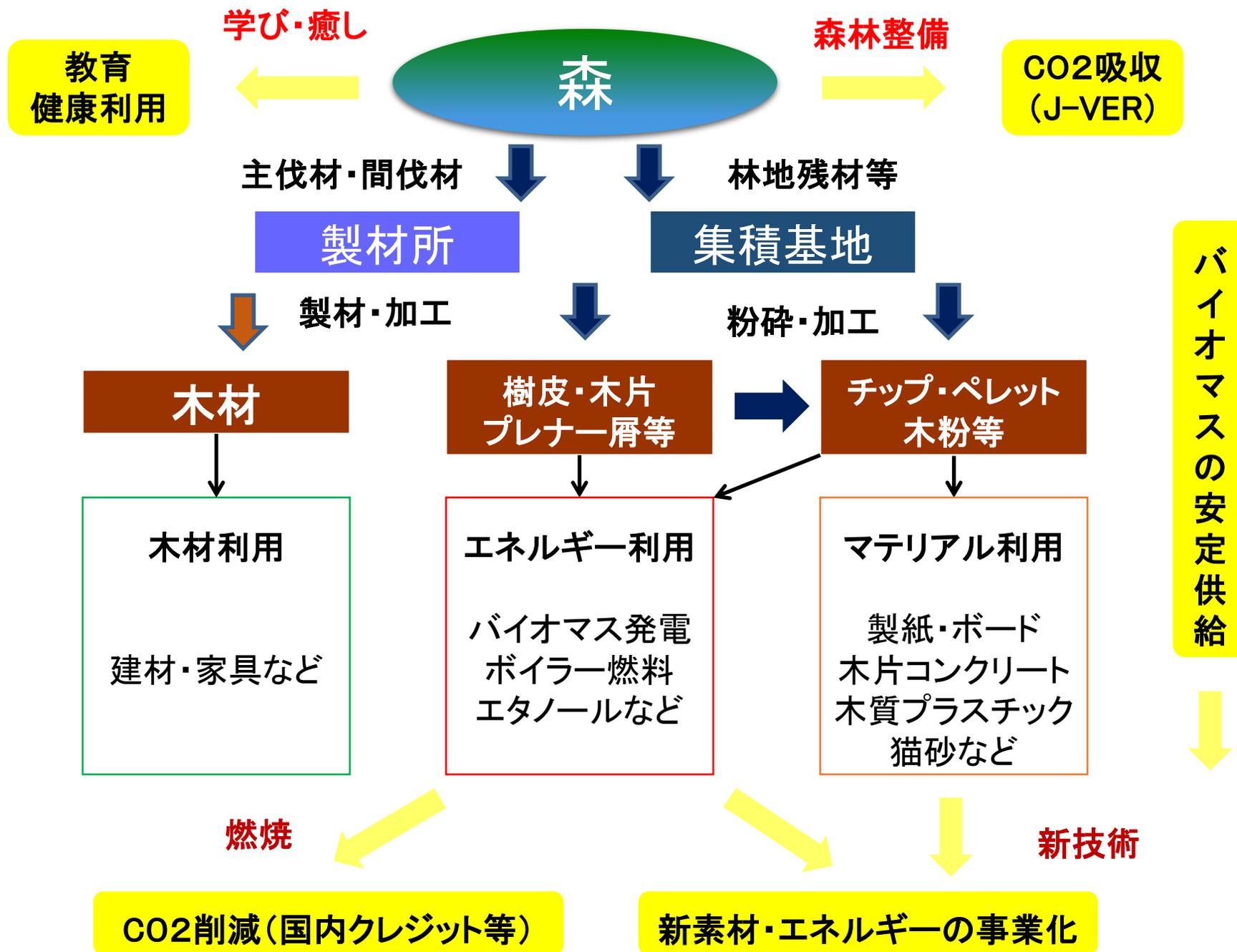
そして、**元気のいい子供たちの楽しそうな声も聞こえる。**

子供たちに人気なのは、冬季の温水プールである。これには地元製材業の自家発電による電気と蒸気が使われている……

山から町へ



バイオマス



教育
健康利用

学び・癒し

森

森林整備

CO2吸収
(J-VER)

主伐材・間伐材

林地残材等

製材所

集積基地

製材・加工

↓

粉砕・加工

↓

木材

樹皮・木片
プレナー屑等

→

チップ・ペレット
木粉等

木材利用
建材・家具など

エネルギー利用
バイオマス発電
ボイラー燃料
エタノールなど

マテリアル利用
製紙・ボード
木片コンクリート
木質プラスチック
猫砂など

バイオマスの安定供給

燃焼

新技術

CO2削減(国内クレジット等)

新素材・エネルギーの事業化

バイオマスエネルギー利活用導入設備一覧

(H30,1月末)

目的	設備名(導入数)	用途(箇所数)
発電	発電用蒸気ボイラ(2)	自社利用・売電(2)
熱利用	蒸気ボイラ(10)	木材乾燥(9)
		コンクリート製品養生(1)
	温水ボイラ(15)	温泉、プールの加温(3)
		ビニールハウスの加温(8)
		施設冷暖房(4)
ストーブ(約197)	民家、事務所等の暖房(ペレット115、薪82)	

地域エネルギー自給に向けて 「里山資本主義」の世界

(2019年度)

- ◆地域内エネルギー **自給率30.2%**
- ◆石油代替量約13,400kl/年を達成 →
重油を70円/klと想定すると、**年間約10億円地消**
- ◆CO2削減量約351,000t-co2/年を達成

- ・地域外購入→地域内生産消費
関係者の連携による、配送システム確立とエネルギーの自給
- ・木質バイオマス活用→森林資源の見直し
林業の活性化と山村の再生 (**年間2億円が山に**)

木質バイオマスの学び

- **木**は、かさ張る、汚い、重い(**煩わしい**) → **地域内消費**がベスト
- ボイラー選定などの利用方法より → **収集・運搬システム**が重要
(**誰が、いつ、いくらで、どのように…地域で決定、地域の自治**)
- 地域内の連携が不可欠 → エネルギー・素材事業のように見えて、
内実は、**地域づくり事業**(**関係性作り**)

小さな里山資本主義

真庭市中和地区の取り組み（人口670人）







赤木 直人(あかぎ なおと)

1979年生まれ、大阪出身。

学生時代は岡山で過ごし、大学を中退後、**雑貨専門店**に入社。

岡山店所属時に妻と知りあい、子供の誕生をきっかけに、

妻の出身地である、岡山県真庭市蒜山(ひるぜん)中和地域へと移住。

2015年5月、**薪の供給**と、
地域振興を目的とする
一般社団法人アシタカを設立。



現在の思い

真庭市に住んで7年目に、（一社）アシタカを設立しました。

それまで、住んでいる集落の事は分かっていましたが、

わずか人口650人、250世帯の中和地域の事は、

全く分かっていませんでした。

立ち上げ当初、その人の顔と名前、そしてその家族の状況まで

わかる方は、15世帯ほど。

1年たった現在、70世帯ほどの方は分かるようになりました。

650人という小さなスケールだからこそできる事があります。

わかる事があります。

5年後には地域全員の顔が見れるようになりたいと願います。

地域にお金を留まらせるため、地域の温泉施設が灯油ボイラから薪ボイラになりました。

それからすべてはスタートしていますが、

お金の地域内循環が大きな成果ではなく、

これをきっかけに**たくさんの方が関り**、そこに**話題が生まれ**、

昔のような**協調する仕組み**（自治）ができた事、

これが一番の成果であると思います。

赤木 直人

無縁社会の本質

「無縁社会」 = 関係性の遮断 =

他者への「無関心」「無視」「面倒くさい」

愛の枯渇した状態

「愛」の反対は、憎しみではなく「無関心」

(マザー・テレサ)

「愛」のきっかけは、「興味を持つ」こと！

持続可能な社会をつくるには、

人と人、人と自然、世代と世代が、つながること

→ つながるには、お互いが関心と共感を持ち合う社会

(関係性の中にある幸せな社会、コミュニティで生きる)

- **娯楽**

カフェ、飲み屋、カラオケ、サロンなども、内部経済の重要な要素

- **地域木材の利用**

1000人集落では住宅約300戸、100年に一度建て替えても、

毎年約3戸の新築。その他、薪、チップ、ペレット…

地域材で家を建てると、地域に大工(雇用)が育つ

- **医療費、福祉費**

互助・共助・公助の確認

医療と福祉の壁の撤廃（電子カルテ化）

地域包括ケアー

- **教育費**（高校で300万円、大学で1000万円）

塾の開設、廃校を学校に。若者の新たな価値観を育てる。

人材の育成・・・遠回りだが、一番の早道

豊かになった国「日本」は、

幸せになったのか ！？

労働の**意味**の変化(戦後70年～現在)

「 **GDP**を向上させるための労働 」

(経済的価値のための労働)

経済的価値を重視して生きることが**幸せ**、という価値観。

戦後、復興のための経済を建て直し、生産性を上げることが不可避。



専業主婦は労働ではない、育児も、介護も、重要な労働とは言えない。

年収は高い方が幸せ。どの会社に勤めているか、が社会的ステイタス。

大企業の方が中小企業より大切で社会的価値が大きい。 **高度経済成長期の論理**

費用対効果で表せないものは価値ではない・・・ **関係性を価値とは認めない。**

(現在～これからの20年)
「 **生きる意味を問う労働** 」
(**meaning of life**)

地に足が付き、コミュニティの中で**必要とされ**、

自然の中で、その**恵み**を得ながら、**必要最低限のモノ**を持つ暮らし。

多くの**人**と、**世代**がつながっている社会を実現する… **関係性は重要**

お金より**共感**や**協働**。共感できなくても、**共生**(そのための、自治)。

Do より **Be** が大切。働くことは、生きること。

お互いが持つ**弱み**を許容し、そこから社会づくりを考える…

人生は、「**職業選択**」ではなく「**生き方づくり**」